

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 平成 30 年度 自己評価表

	評価項目	評 価	課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切			
教育目標 教育理念・	① 教育理念・教育目標は、定められているか。	4	国際社会のグローバル化という観点から、多様性・多国籍文化との共生を目指しており、新しい国からの留学生を受け入れるための情報収集を行っていく必要がある。	学校の教育目標を実現するため、職員に教育理念を徹底するとともに、資質向上の研修会を開催し、学生の満足度、定着度の高い学校づくりを目指す。	
	② 教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか。	4			
学校運営	① 学校の教育目標に沿った運営方針・事業計画が策定し、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。	3	教育目標に応じて、適正な事業計画等を作成している。また、具現化に向けて、内部の会議だけではなく、外部の教育課程委員、学校関係者評価委員からの意見を参考にしながら、教育目標実現に努める。	来年度学生数を増やす計画があるので、速やかな対応ができる環境を整備する。	
	② 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3	4月から新しいWEB ページが完成し、いくつかの言語でも見られるように改善を図るが、内容の更新を適切に行うことが求められる。	学生の活動状況・資格取得状況等含め対外的アピール材料を再確認し、情報発信を行う。	
	③ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3	効率化のために新しい学務管理システムを導入した。全職員でスムーズに活用できるようにしていかなければならない。	使い方に関する研修会等を開催し、運用に支障をきたさないようにする。	
教育活動	① 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3	教育理念・目標とする育成人材像の具体化については、イメージが先行しており、今後、具現化に対する全職員での共通認識が求められている。	日本人学生と留学生が交流できる行事を行いながらも、学習時間を確保し、学力向上に向けての共通理解を図る。	
	② キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	4	・より現場に近い講師陣の意見を積極的に取込み、インターンシップや資格対策授業の見直しなどを実施していく。	より実践的な授業内容を目指して、カリキュラム編成を行う。	
	③ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が行われているか。	4	・国際ホテル観光ホスピタリティコースにおいては実習・インターンシップを実施しているが、突然の欠席によりインターンシップ先のホテルに迷惑をかける場合が生じていることが問題である。	インターンシップに責任感を持って臨むように指導の徹底を図る。	
	④ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	・専任教員による新任講師の授業見学及び教案の事前チェック等は確実に実施しており、成果も上がっている。しかし、専任・非常勤の垣根を越えた相互授業見学を更に充実させることが必要である。	授業を含めた業績評価を給与に反映するシステムの構築を図っていきたい。	
	⑤ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。	4	・TOEIC、英検、情報処理、ワープロ検定、日本語能力試験、留学試験は、カリキュラム上で明確に位置付けているが、実施回数などについて適切か検討する。	個別指導等を併用しながらの教育を行っている。今後もこの指導方法を継続したい。	

	評価項目	評 価		課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切				
	⑥ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上に向けて、外部講師を招聘し、授業改善の視点等について学習する機会を設ける。 ・外部で開催される研修会に教員・事務職員に関わらず、積極的に参加を促していく。 	全専日協の研修会を起点として、職員の専門性を高めるための研修会の定期的な実施を通して、職員の意識改革を図る。	
学修成果	① 就職率・資格取得率の向上が図られているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・コース毎に TOEIC、英検、情報処理、ワープロ検定、日本語能力試験、留学試験を実施しているが、体系的な目標設定が不十分であり、具体的な数値目標の設定が必要である。 ・コース毎に表彰は行っているが、校内に貼り出すなどを行い学生の意欲を高めるとともに外部への広報活動を積極的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率向上に関しては、新たな企業の開拓を図る。 ・年度当初、学生たちに到達目標を知らせ、その実現に向けて努力させていく。教員に関しては、移動等があっても高水準の指導を維持できるように、指導の体系化を図りたい。 	
	② 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学を果たした日本人学生の経験から英語科カリキュラムを改善する、また社会人となった卒業生との連携の強化を図り、早い段階から将来の展望を持たせることが必要である。 	卒業生を外的資源と考え、本校の教育活動に対する協力・支援を求めて、系統的な働きかけを今後も継続する予定である。	
学生支援	① 学生相談に関する体制は整備されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による個別面談の回数を増やし、スクールカウンセラーの情報を学生に徹底する。 	メールで相談するシステムを早急に開始する。	
	② 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。		4	<ul style="list-style-type: none"> ・JASSO 奨学金の活用や学校奨学金制度の活用を学生に促す。また、学費の分割相談に対応していく。 	様々な個別相談を実施していく。教員と事務局の密な連絡体制を構築する。	
	③ 保護者と適切に連携しているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率の変化（悪化）等含めて、随時、保護者と連携した指導をタイムリーに実施する。 	学生の状況に応じて、機を逃さず、保護者対応を行う。	
	④ 卒業生への支援体制はあるか。		2	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進学・留学支援等実施しているが、情報が不足しており、卒業後の就職支援体制が不十分である。 	外的資源となる卒業生の追跡調査が不十分である。同窓会組織を強固なものにし、現役支援体制を整える。	
	⑤ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校との連携は年々拡がりを見せているが、高校にも働きかけていく。 	高校生と本校留学生等の異文化交流を設定し、国際感覚の育成を助ける。	
教育環境	① 学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。		4	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の場は、アメリカ、フランス、タイ、中国、韓国と充実しているが、更に広げる努力をする。 ・ホテルコースのインターンシップの場所を現在の2カ所から増やすことが求められる。 	職業実践専門課程の申請に向けて、ホテルコースのインターンシップのホテルを増やしていく。	
	② 防災に対する体制は整備されているか。		4	<ul style="list-style-type: none"> ・組織化された体制の下、防災に対する職員・学生の意識を高めることが必要であり、学生を避難訓練に真剣に取り組ませる。 	命に関わる問題であり、学生を指導する職員の防災に対する意識を更に高めていく。	

	評価項目	評 価		課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切				
学生の受入れ募集	① 高校・高等専修学校等に対して情報提供等の取り組みが適切に行われているか。	3		・高校訪問、学校説明会等で、本校の情報の発信を積極的に行い、海外の大学への編入、国内大学への編入のメリットについて、高校の教員に周知徹底することが大事である。	高校訪問の充実を図ると共に、学校説明会の対象校の更なる増加を図る。	
	② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は、正確に伝えられているか。	3		・必要な情報を伝達している。就職状況についての情報は、学生募集に大きく影響するので、就職決定率を100%にする。	資格取得のための取組をさらに充実する。また、就職先の開拓を今後も続けていく。	
財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4		・学生数が安定し始め、健全な財務状況が継続しているが、学費未納のまま退学する学生がおり、退学後も学費徴収の努力を行う。	継続的に安定した学生数確保のため、国内・海外での広報活動を更に充実させていく。	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4		・学校ホームページでの公開を実施している。	職員等への説明を今後も継続する。	
法令等の遵守	① 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3		・監督官庁である私学振興課及び入国管理局に随時相談し、アドバイスを求めるとともに、指摘事項については適切に対応する必要がある。	関係行政機関等への報告・相談等については、早期対応を心がけている。	
	② 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3		・自己評価は2015年から実施しており、その結果を全職員で共有し、何を改善すべきなのかを早急に決定し、実行に移していかなければならない。	PDC Aサイクルでの、評価・改善に対する職員の意識を更に高める努力を行う。	
社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4		・小学校、高校に対して留学生を派遣し、グローバル化に伴う異文化共生の起点となっている。	異文化交流を起点とした社会貢献を更に充実させる方向である。	
	② 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。	3		・地域小学校と留学生の交流授業への参画や不定期の外部の交流イベント・ボランティア活動に対して、学校として積極的な姿勢が今後さらに求められている。	地域貢献の一環として、小学校・中学校・高校との異文化交流を図っているが、更なる充実を目指したい。	
国際交流	① 留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行われているか。	4		・留学生受け入れについては、特定の国籍に偏ることなく、全世界的レベルで考慮し、併せて、リスクヘッジの観点が必要である。 ・海外大学への編入についても、1年次の後期から単位互換ができるような授業内容で指導していく。	各国の日本語学校や送り出し機関を定期的に訪問することにより、信頼関係を深め、学生募集を図る。日本人学生の海外大学編入に関しては、更なる提携大学拡大を図る。	
	② 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4		・学習面、生活面については、担任制に基づいた早期対応を基本として、更なる指導の充実を図る。 ・生活指導面における、寮生の動向や、病気・事故等については、それぞれに担当を配置し、早期の対応を行う。	担任制により、きめ細かな指導を行っていく。また、学生が自分の悩みを相談できるためのサポートチームを編成するとともに、相談をメールで送れるアドレスを設ける。	